



# 埼玉キムチ新聞

第36号

2026年3月21日

販売会毎発行

(努力目標!)

kimuchi@saijai.net

## 〇〇から見る朝鮮学校 その①①

◆《ウリカペブックトーク》『朝鮮学校児童・生徒たちの作文集』を読む②での感想・その③

★二〇二五年十月四日、東京・新大久保にある文化センターアリランでウリカペ主催のブックトーク『朝鮮学校児童・生徒たちの作文集』を読む」が行われました(詳細は『埼玉キムチ新聞・第三三三号参照〕「有志の会」HP掲載。その場で読まれたスタッフの感想を紹介します。

『コッソニイ』・「忘れられないあの日」(ソン・ミリョン)

この物語は、朝鮮学校に通うミリョンさんと近所に住む日本の学校に通うハルカさんの友情のお話です。読みながら、自分が中学生の頃、別の学校の友達がほしい、と憧れていたことを思い出しました。しかも兄弟ぐるみで遊ぶほどの仲良し! そんな二人を羨ましく思いました。

その親しい友達のお兄さんから、殴りつけられるような差別的言葉をかけられた、ミリョンさんはどれほど傷ついたでしょう。

ハルカさんのお兄さんの「ここは日本だから、朝鮮人は朝鮮に帰れ」という差別的言葉は、どんな理由があろうと許されるものではありません。しかし、ミリョンさんたちと同じく十代であろう彼に、「この言葉を言ってもいいと思わせた、差別をそのままにしてきた日本社会の責任は重いです。」

この話を読んだ時、ドキッとしてしまいました。私も「日本人」のマジヨリティとして、何気ない行為や言葉が、差別だったかもしれない、と思うことがあるからです。

大学生の時、友人が「家族に誰にも言つな、と言われているん

だけで、朝鮮にルーツがある」と打ち明けてくれたことがありました。その時の私は、それがどんな意味を持つのか理解できず、返した言葉も覚えていません。でも、二十年近く経つ今、その時の彼女のなんとも言えない顔をふと思い出します。彼女とは大学卒業と共に疎遠になったけれど、あの時の私が、在日朝鮮人や差別を理解しようとしていたら、違う未来があったかもしれないと思うのです。

物語では、ハルカさんのお兄さんは自分の過ちを認めて謝罪をします。差別をしない、差別に自覚的になることはもちろん大事なことです。それ以上に目の前の相手がどんな人なのかを理解しようとする、自分の行為を真摯に認め、二度と同じ過ちを繰り返さない、と決めて行動していくことが必要なのだと思います。

私は今、「朝鮮学校とともに歩み、私たち・ウリの問題として補助金停止を考えるプロジェクト(通称ウリプロ)」での活動を通して、日本社会の「自分ごと」として、朝鮮学校補助金不支給問題に向き合っています。ミリョンさん、ハルカさんのような子どもたちが等しくのびやかに育ち、そして私に秘密を打ち明けてくれた彼女が安心して自分らしく生きていける、そんな日本社会にしたいです。そのため、私もできることをしたいです。(Chihio)



『コッソニイ』のご購入は、  
⇒ Amazon (在庫切れや”高騰あり”)  
⇒ 池袋のジュンク堂や新宿紀ノ国屋には常に在庫が置かれている(もしくは取り寄せ可能)  
⇒ [soriyomoyora@gmail.com/](mailto:soriyomoyora@gmail.com)  
編集事務局に連絡がすれば、1870円で発送

### ★埼玉キムチについて★

2010年度末、埼玉県は、「財務の健全化」を口実に埼玉朝鮮学園への補助金の支給を打ち切りました。また、埼玉県議会は2012年に「拉致問題が解決するまで補助金の支給を行わない」という附帯決議を行いました。これは朝鮮学校に通う子どもたちとは何ら関係のない外交政治上の理由を持ち出すことによる不当な差別に他なりません。2018年度に県が財務状況について、「健全性が確認できた」と学校に通達した後も、支給停止は続いています。このような非常に厳しい状況の中、埼玉キムチは少しでも学校運営に寄与するため、「利益全額カンパ」の活動を行っています。美味しいキムチとともに、朝鮮学校支援の輪が広がりますよう、ご協力よろしくお願ひします。